

「桐生市本町のまち並み」と「歴史的建造物」

桐生市本町一、二丁目周辺区域には、桐生新町を彷彿とさせる土蔵造りの店舗や白磁タイルが貼られたモダンな事務所、煉瓦倉庫などさまざまな種類の、また、幕末から昭和初年にかけての歴史を感じさせる、たくさんの歴史的建造物が建ち並んでいます。

桐生の本町は、徳川家康が江戸に入城した天正18年(1590)ののち、代官大久保長安の手代大野八右衛門によって「桐生新町」として新たに町立てされたことに始まります(「本町」は近代になってからの名称)。旧桐生領総鎮守天満宮を基点とし、南に向かって一直線の道路(現在の「本町通り」)が引かれ敷地割りを実施されました。周辺の山村では古くから養蚕が行われており、絹織物は、桐生を江戸初期



から特徴づける産業となっていました。

桐生の本町周辺には、伝統的に形成されてきたまちの施設、建築群が良好に残され、特にまちの骨格は江戸初期以来のものが踏襲され、大きな変化を受けていません。そして、歴史を経るにしたいがい、その骨格に様々な要素が付け加えられてきました。それは、まちと住環境を維持経営しようとした多くの創意工夫の結晶なのです。



本町通りに面する町家群

桐生のかつての織物業の表情を残す建築群である。

各敷地に残る居宅、土蔵、小祠

敷地中程の居宅は桐生の性格を示す建築群で、土蔵も敷地中程に位置するものが多く、三、四丁目にもまだ残っている。これは桐生本町の豊かさ、繁栄を示す象徴ともいえる。小祠は町立てが行われた当時の敷地割りの痕跡である。(小祠は通常、敷地の最奥に配置)

各敷地奥に設けられたノコギリ屋根工場

織物業の機械化に伴って設けられたもので、織物を主産業としたまちの近代化の象徴的な施設である。

桐生市本町一、二丁目周辺区域に残る歴史的建造物



1

【一の湯】
当初は隣接する織物工場で働く従業員の浴場として建築され、現在は銭湯として営業している。



2

【森合資会社事務所】 **国登録有形文化財**
大正3年建築、屋根は銅板葺きで、外壁には白磁タイルを使用した洋風の事務所である。



3

【平田邸】 **国登録有形文化財**
大正3年(袖蔵は明治33年)建築、この地域にはめずらしい蔵造りの店舗である。



4

【旧曾我織物新工場】 **国登録有形文化財**
大正11年建築、大谷石造りのノコギリ屋根工場
で、通風用の丸窓飾りが特徴である。



5

【玉上薬局】
文化3年建築と伝えられ、妻入りえびす造りの店
は江戸時代から続く薬種商である。



6

【旧書上商店(花のにしはら)】
明治期の桐生を代表する買継商「書上家」の商
店店舗、この一画で坂口安吾が生活した。

桐生市本町一、二丁目周辺区域に残る歴史的建造物



7

【桐生市有鄰館と矢野本店】 **市指定有形文化財**
桐生の商業に大きく貢献してきた矢野商店の土蔵等建物群、店舗以外は市に寄付されている。



8

【酒屋小路(近江辻)】
有鄰館の脇道、土蔵群の外壁が往時の雰囲気醸し出し、映画やドラマに利用されている。



9

【旧住善織物工場】
大正11年建築、桐生で現存する唯一の鉄筋コンクリート造のノコギリ屋根工場である。



10

【桐生天満宮】 **県指定有形文化財**
桐生新町創設の際、現地に遷座された。権現造、外壁には極彩色の彫刻が施されている。



11

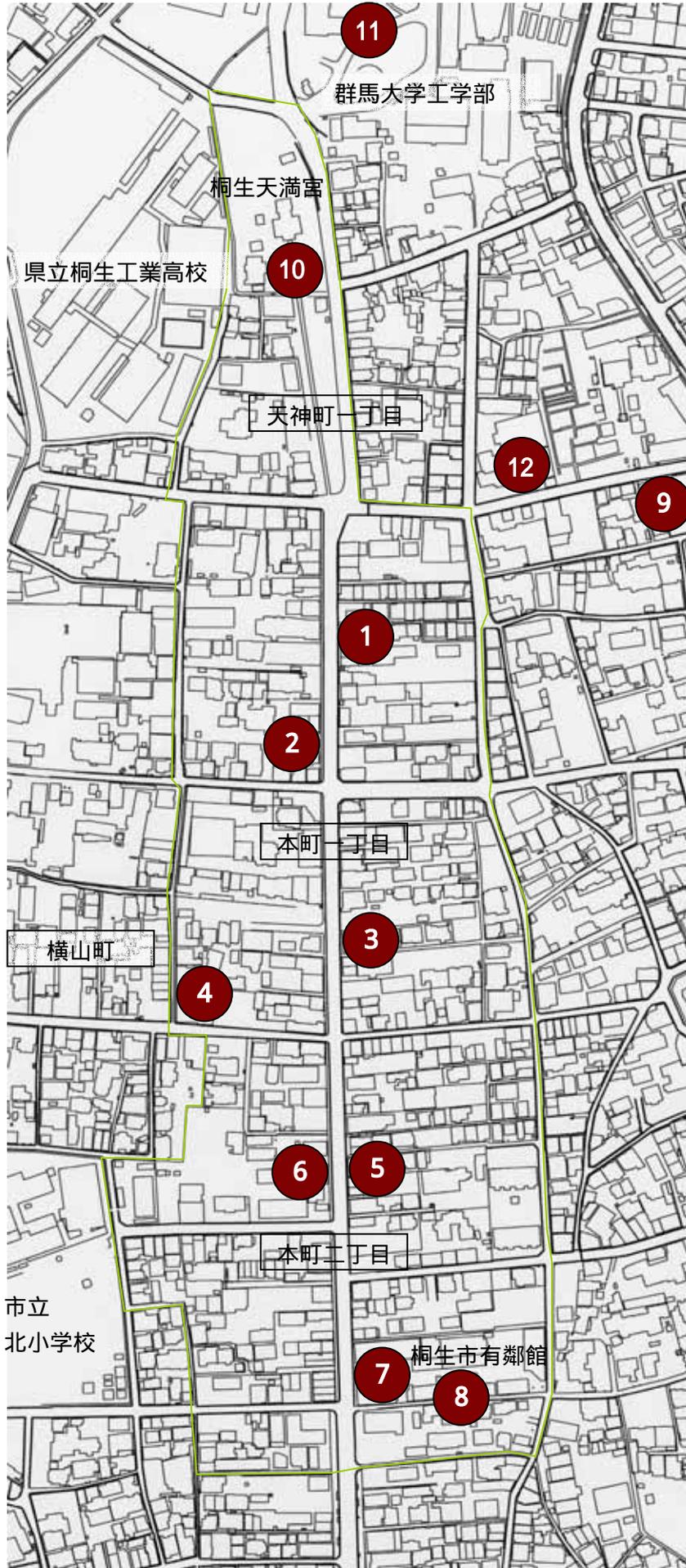
【群馬大学同窓記念会館】 **国登録有形文化財**
大正5年に創設された桐生染織高等学校の講堂及び正面玄関の一部を昭和47年に移築した。



12

【旧金谷レース工場】 **国登録有形文化財**
大正8年建築、桐生で唯一の煉瓦造りのノコギリ屋根工場、現在はパン屋として活用している。

歴史的建造物 位置図

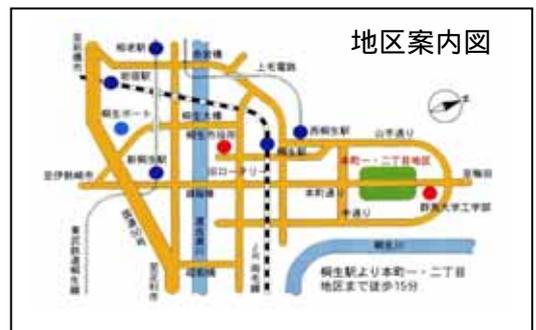


地区内歴史的建造物現存状況 (H20.8時点、本町一、二丁目のみ)

昭和20年以前建築のもの

町屋	50棟
主屋	69棟
長屋	51棟
土蔵	48棟
織物関連工場	5棟
付属屋	8棟
計	231棟

本町一、二丁目には全部で399棟の建物がああります。



桐生市総合政策部伝建群推進室推進係
〒376-8501 群馬県桐生市織姫町1-1
TEL 0277(46)1111(代) (内 346・639)
FAX 0277(43)1001
e-mail denkengun@city.kiryu.gunma.jp